

## LPガスCP速報(2025年1月積)

### 1. 1月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **625** <sup>ドル</sup> (前月比-10 <sup>ドル</sup>)

ブタン **615** <sup>ドル</sup> (前月比-15 <sup>ドル</sup>)

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が堅調に推移するなか、中東市場は、冬季需要期を迎えたものの、盛り上がりには欠ける展開となった。中国経済は、景気刺激策が打ち出されるも、石化需要は低迷、PDH稼働率も上がらず、市況の重しとなっている。極東に寒波到来、中国春節需要を控えプロパン需要は今後増える見込みだが、供給は潤沢、年末年始の休暇モードで市場は閑散、極東CFR市況は、第3週でプロパン620~600 <sup>ドル</sup>、ブタン610~590 <sup>ドル</sup>で推移、ブタン安が顕著になってきた。

米国市場は、プロパンの供給が絞られるなか、需要期を迎え在庫は取り崩しが続いているものの、全米のプロパン在庫水準は5年平均レンジを上抜けている(グラフ②参照)。モンベルビュープロパンスポット価格は、プロパン在庫の減少と天然ガスの急騰もあり下旬に急伸、月間平均では前月比16 <sup>ドル</sup>下落の403 <sup>ドル</sup>/トニック(グラフ①参照)に軟化した。

フレート市況は、堅調に推移した。米国~極東市場は100~110 <sup>ドル</sup>どころ、中東~極東は50~60 <sup>ドル</sup>どころ。中東市場は、船舶需給がバランスからやや緩和といったところ、インド勢の情勢と喜望峰経由の米国向けで一時タイト化も。米国市場はホリデーシーズンを控えた成約ラッシュも収まり、船舶需給は落ち着きを見せている。パナマ運河の通峡は順調、今後の米国積みは、比較的穏やかな天候がどう推移するか、霧・寒波等の影響も注視される所。

ナフサ市況は続落、月間平均は前月比9.3 <sup>ドル</sup>下落の635 <sup>ドル</sup>どころ。原油市況が狭いレンジで動く中、中国の経済・石化需要の低迷が市況を重くしている。

バンカーオイルをみると、シンガポールI F O380は続落、月間平均で前月比9.5 <sup>ドル</sup>下落の463 <sup>ドル</sup>どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は小反落、前月比3.4 <sup>ドル</sup>下落の673 <sup>ドル</sup>どころ、ガスオイル・C重油との格差は210 <sup>ドル</sup>に拡大。

1月CPは前年同月比プロパン5 <sup>ドル</sup>上昇、ブタン同15 <sup>ドル</sup>の下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン2、ブタン3ポイント下落、前年同月比ではプロパン8、ブタン6ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	50	60	60		
CP先物指標:P	620	615	610		
CP先物指標:B	615	610	605		

#### ② 原油市況等

12月の原油市況は、WTIで68~71 <sup>ドル</sup>の狭いレンジで推移した。ホリデーシーズンで薄商いのなか、市況を大きく揺り動かしたのは、ウクライナ・ロシア戦争の緊迫化と中東情勢の地政学リスク、トランプ次期政権が示唆する対イラン制裁強化見通し、EU、中国に対する恐喝のような関税方針など、市場は戦々恐々。市況の重しとなっているのは中国の需要低迷(需要ピーク見通し)で、非OPECの増産により、2025年の供給超過見通しが示され、OPECプラスの自主減産縮小計画は見通しが立たない状況。一方、米原油生産量は過去最高を更新しているが、全米原油在庫は5年平均レンジをした抜ける低水準となっており、先物市場では、プロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ザヤは拡大傾向、テクニカル指標(100日移動平均)の突破で、大口ファンダ筋の買い越し残高が増加してきた。

○12月積みアラビアン・ライト(12月1~31日までの想定)は74.94 <sup>ドル</sup>(前月比+0.20 <sup>ドル</sup>)

熱量等価AL100% プロパン614.43 <sup>ドル</sup>/トニック ブタン606.00 <sup>ドル</sup>/トニック

AL比 プロパン101.72% ブタン101.48%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

## 2. 2025年1月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

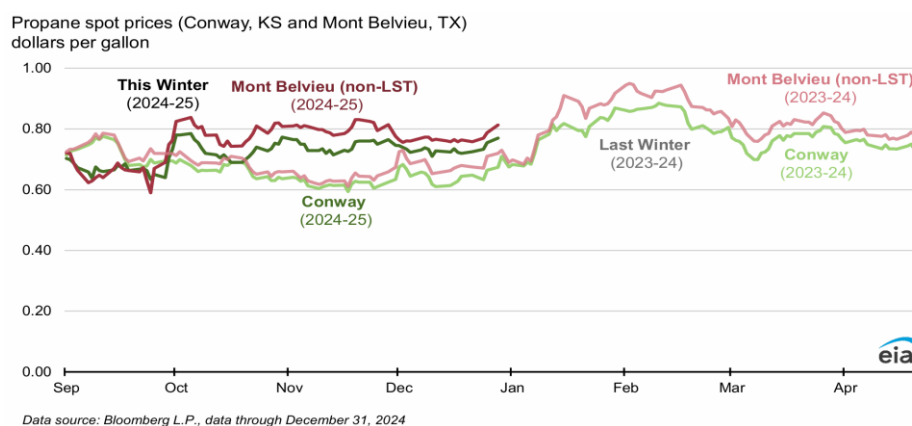
適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
12月月間	154.77	101,100	105,200	-1,000	-1,100

\* TTS平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

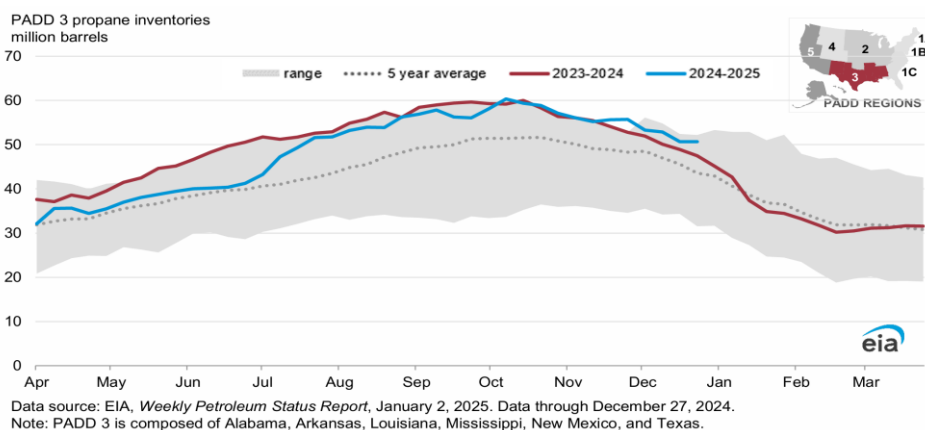
上記は12月1～30日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは12月31日までの価格を基にEINで試算（403ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ① 米国プロパンスポット価格推移



### ② 米メキシコ湾岸プロパン在庫推移



### ③ 米プロパン輸出量推移

